

メイヨークリニック研修に参加した方々からのレター

メイヨークリニック体験記

小陽美紀

(済生会横浜市東部病院)

1. 自己紹介

助産師としての臨床経験の後、看護大学の教員等を経て、現在は総合病院の看護部教育担当師長として、自院で働くスタッフへの継続教育支援と看護学生の実習受け入れの調整等を行っています。

2. なぜ木村財団のメイヨークリニック研修に行こうと思ったか

研修への参加は上司が薦めてくれました。正直、長期間職場を不在にすること、また、英語の問題など不安に感じることもありました。しかし、それよりも長年ベストホスピタルと称されるメイヨークリニックでは、どのようにスタッフの育成を行っているのか、そして“*The needs of the patient come first*”というシンプルで強い理念が、巨大な組織であるメイヨークリニックの医療や看護の実践にどのように反映されているのか実際に見てみたいという思いが勝り、参加することを決めました。

3. メイヨークリニック研修で学んだこと

(1) メイヨークリニックでのある日の研修状況

午前 7:30~12:00 実習：産科外来における助産師・看護師のケアの見学

産科外来で妊婦・褥婦とその家族に提供されるケアの実際について見学することができました。初回の問診や検査、電話相談、妊婦健診等行われているケアそのものは、日本と大きな違いはありませんでした。しかしながら1人の助産師・看護師が1組の家族に関わることでできる時間や物理的なスペースがゆとりをもって確保されていることに感心しました。その時間的・空間的に十分保障された関わりによって、患者・家族は治療方針や経済的な懸念など些細な不安も表出することができていました。スタッフは、その場でパンフレットを用いて患者教育を実施したり、最新の研究論文を見せながら説明したり、胎児治療の専門医やソーシャルワーカーにコンサルテーションを依頼するなど、個々の患者の訴えの内容や理解の状況に応じて、きめ細かく丁寧に対応していました。

驚いたこととしては、助産師・看護師が他職種のコンサルテーションが必要と判断した場合、依頼してから数十分後には面談が可能になっており、その後、患者・家族の表情が随分穏やかなものになっていました。医療職各々が自己の専門性に深くコミットメントしていること、更に他の職種の専門性に信頼と尊敬の念を抱き、オープンで密なコミュニケーションを大切にしていることが、連携体制を柔軟かつ迅速に機能させ、結果、良いケアの成果に結びついていることを、実際に目の当たりにでき、今でも強く印象に残っています。

午前の研修終了後、職員・患者専用のシャトルバスを利用し、ダウンタウンにある Methodist Hospital から Saint Marys Hospital へ移動しました。

午後 13:30~16:00 講義：看護師教育について

研修生全員で、看護教育の専門部署の担当者から、メイヨークリニックの看護師継続教育の概要、更に、教育プログラムとして特徴的な Nursing Leadership Perspective Program(NLPP)の内容とその成果について講義を受けました。スタッフへの教育支援については多くの研修生が興味・関心のある領域だったため、その後、日本の現状などと比較しながらディスカッションを行いました。

(2) メイヨークリニックで学んだこと

3 週間にわたり様々な実践の場を見学させて頂く中で学んだことを端的に述べるならば、メイヨークリニックにおいて良い患者ケアを行う、つまり理念である “The needs of the patient come first” を実現するためには、実践-教育-研究の有機的な連携が不可欠であるということです。そして、その連携のシステムをベッドサイドケア、スタッフへの教育支援、そして組織体制に至るまで、あらゆるレベルに徹底して組み込み、運用し、維持し続けることが重要であるとことを学びました。

(3) メイヨークリニックでの研修期間中、休日は何をしていたか

休日は、メイヨークリニックのスタッフと共にミシシッピリバーツアーやアーミッシュツアーといったアクティビティに参加することでリフレッシュすることができました。また、時にはホテルの自室で休養したり、学んだことや感じたことをまとめる時間に使ったり、1人でのんびり散歩や買い物に出かけたりしてリラックスする時間も大事にしながら過ごしていました。

4. メイヨークリニック研修から帰って自分の中で変わったことや所属医療機関への還元

研修を終えてから、自分の中で変わったと感じることの一つとして、何らかのチャレンジングな課題に向き合った際、早々に「出来ない、無理だ」とあきらめる前に「何から、どこから手をつければできるだろうか？」という思考に切り替えることができるようになったことがあります。これは研修中に見学させて頂いた施設の一つである Center for Innovation の壁に大きく描かれていた “Think Big .Start Small .Move Fast” のフレーズや、出会ったスタッフの方の言動に影響を受けた部分が大きいと感じています。

所属施設での具体的な取り組みとしては、院内でのシミュレーション教育を推進するにあたり、まずは全職員が短時間で受講が可能となるようなプログラムの試験的導入を行いました。現在も少しずつではありますが、職員が学んだことを実践の場へと繋げることができる学習環境を目指して改善を続けています。

5. 英語力をつけるためにどのように勉強したか

週刊 The Japan Times ST を定期購読したことと、英会話学校のプライベートレッスンを受講しました。今、振り返ってみると、相手の話を理解できないとそもそも会話が成立しないので、リスニングの力をもっとつけておけば良かったと感じています。

6. メイヨークリニック研修への準備と心構え

研修参加にあたっての事前準備としては、自分自身の研修目的を具体的に明らかにしておくことが重要です。それは「単に興味があるから知りたい」というレベルではなく、自分の職務内容やこれまでの経験とどのように関連しているのか、自施設ではどのような現状なのかを説明できるレベルまで落とし込んでおくことが望ましいと思います。それらは、メイヨークリニックのスタッフとのコミュニケーションを助けるだけでなく、私の場合は、自分が研修を行う中で迷ったり、混乱したりした際に「自分は何を学びたかったのだろうか」と立ち返る視座としても有用でした。

また、実際に研修が始まってからは、逆にその目的にあまり捉われすぎずに、例えばそれが自分の専門性や意向と異なるフィールドであっても、目の前にある異文化の医療・看護の現場に対峙する中で、視野を広く持ち、好奇心と誠実さをもって向き合うことが、期待をはるかに上回る学びを得る大切な心構えの一つだと考えます。